



せき しょうこ
関 笙子
(創政会)

- 今後の総合支所のあり方は
- 不登校児童の将来をどう考えるか

質問 合併する際に確認した協定項目があり、平成27年度まで総合支所方式が約束されている。現状とこれからの進め方を伺う。また、各区で持ち込んだ新市建設計画の進捗状況と達成に向けた考え方は。

市長 日常の業務手続きやサービスが低下しないよう配慮しながらも毎年機構が変わって来た事は事実である。今後、市民が総合支所で用事が完結できるよう『あり方』についてしっかりと検討を重ね、市民の声を聞きながら進めていきたい。新市建設計画の実施は、合併時想定されてなかった事項に影響されつつも当初の基本計画は確実に実行していく。前沢の幼保施設の整備についても、財政状況を検討しながら合併前の計画を最大限に尊重し、進めていく。

質問 奥州市の不登校は減少していると思うが、不登校は存在してはいけないと考える。現状と対策・不登校児童の将来をどう考えているか。

教育委員長 市内の小中学校を

30日以上欠席した児童は、平成19年度は133名、平成23年度は76名と減少した。友人関係とのいじめ問題も要因に含んでいる事を確認している。人と人の繋ぎの大切さや、親子関係、家庭環境等に配慮しながら各学校や他市町村とも連携しながら、有効な取り組みについて努めている。具体的には、フロンティア奥州として高野長英の関係施設であるが、落ち着いた素晴らしい施設で現在勉強もしながらさまざまな作業もし、復帰できるよう、細やかな指導を行っている。



元気に学校に通う子供達（前沢区内）



えんどう さとし
遠藤 敏
(創政会)

- コスト計算と積極的な民間開放で経費削減すべきだ！
- 総合支所に権限と財源を！

質問 市の財政の実態が県下最悪となり、事態の深刻さに不安を感じる市民が増えてきているように思う。施設や事務事業の民間開放にさらに積極的に取り組むべきだ。また、行政全般のコストを計算し、民間と競い合う制度「市場化テスト」を活用すべきと考えるが。

市長 民間でできるものは極力民間に委ねる事で財政負担の軽減やサービスの向上に努める必要がある。今民間にお願いするためのオール奥州としての一つの基準を作る作業をしている。その中で事業ごとの全ての項目について精査をしていく。コストについてはモデルと制約を設定して検討してみたい。

質問 それぞれの区が取り組んできた個性的なまちづくりを伸ばし、お互いに競い合う事によって活力ある魅力的な奥州市になると思う。総合支所が地域内分権を支える本場の総合支所になる必要がある。総合支所に権限と財源を与えるべきではないか。

市長 総合支所のあり方について骨子をまとめている。まとまり次第報告し意見を頂戴したい



区民の心のよりどころ…。

質問 地域協議会の市政運営における位置付けをどう考えるかと考えている。

市長 地域協議会については、市の意思を組織決定する際、当該地域を代表し最も大切な意見を頂く機関と考えている。

質問 前沢の地域協議会で、いきいきスポーツランド東側の総合運動場の用地取得が来年となっているが、新たな予算の持ち出しをしないで用地取得だけでなく、整備まで進める素晴らしい案が提案されていたが対応するべきでないか。

市長 非常に筋の通った話と認識している。重要な提案として検討している。